作成（2025 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	島田　恭宏
所属機関名	工学部情報工学科
職位	教授
在籍年	32 年

教育の責任

初年次の導入教育（情報リテラシー、情報工学フロンティアⅠ）、および、ソフトウェア系科目（ヒューマンコンピュータインタラクション、ディジタル信号処理）における専門知識の教授、実験科目（情報処理実験）により理論と実践をつなぎ、応用可能な能力へ発展させることなどを担っている。卒業研究では、主にヒューマンインタフェース分野においてソフトウェア・ハードウェアにまたがるテーマを提供し指導を行っている。また学科のキャリア形成委員を担当しており、企業担当者への対応や学生に対する就職指導等を担当している。

教育の理念

能動的学習を継続できるような能力を身につけてほしい。将来、技術者として社会の要請に答えるためには、直面する新たな問題に対して学習しながら対応することになる。この時、仕事での必要性といった外的要因ではなく、自身の興味や好奇心といった内在する動機が加われば問題に対して能動的に学習に取り組み、適切な行動がとれると考えられる。そのために大学での学修期間において学生の興味を引き出し、継続的学習の動機付けとなるような活動の実施を目指す。さらに学生の身近な環境から興味の対象となるような問題の抽出や発想を可能とするような「気づき」を体験させるようにしたい。

教育の方法・方針

1）計算能力を養う必要のある科目においては、例題解説→演習課題を実施する
例題に学習してきた理論を当てはめてみせることで理解が具体的になり、その類似問題を演習課題とすることで、応用の手がかりを与えられる。また、授業中にフィードバックを行うことで、誤りを訂正できる。

2）グループ学習
メンバ間の意見交換により各人で知識を補完できる可能性がある。またそれにより、理解が多面的になる。学習中の役割分担により、チームワークの基礎力を身につけることができる。

3）（主に知識の教授に関する授業での）ミニッツペーパーの使用（授業終了前に作成・提出）
授業中に即座に復習し要約することで知識を再編させる。「分かったこと」「記憶に残ったこと」を記載するように指示するが、そこに上がらなかった「分からなかったこと」をあぶりだす。

4）理論に対する具体的事例の紹介
理論に対して具体的事例を与えることで理解の促進を目指し、また該当分野への興味や関心を高める。

教育の成果

実験・実習付き講義における作品制作課題などでは、グループで計画的に課題を遂行し、最終的に学生らが計画した制作物を完成させることができた。授業アンケートにおいて、グループ学習に対する肯定的な意見が多くみられた。

初年次教育においても例題ではないものの、簡単な演習問題ののちにアイデアを出し合いプログラミングにより具現化する過程を体験することで、プログラミングに対する興味を持たせることができた。

ミニッツペーパーを利用することで、学生の理解の程度をある程度把握できた。学生が重要視していない見落とした部分について、次回の講義時に注意を与えることができた。ただし、フィードバック方法には工夫が必要であり、コメントを入れ、個人情報を削除し受講者に開示しつつ解説したが、これに関しては不評だった。

今後の目標

- 導入教育においては、学科教員の意見を参考に、在学中の活動により活用できる知識と技能を選定し授業に取り入れたい。
- 授業アンケートの結果、「分野への理解が深まった」は回答者に対する割合は比較的高い。しかし、この分野への関心、興味が高まったはそれほど高くない（理念に応えるだけの活動ができていない）ため、受講者の関心・興味を高めるような工夫を行いたい。

根拠資料

授業アンケート結果、ミニッツペーパー、実験提出レポート